

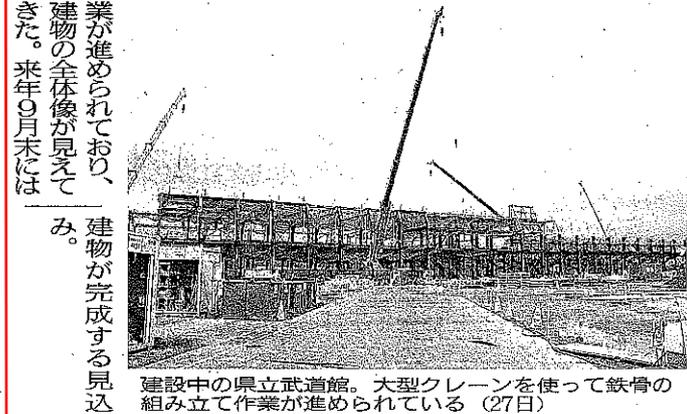
信公を

要望書提出

上越武道連盟

月、県知事にも提している。正式名は例により決まっていますが、愛称について、県立武道館は12月1日から供用する。村山市長は呼称について、愛称を付けることとスポンサー企業によるネーミングライツ

という県側の考え方を示し、「地元から愛される、来た人にその気持ちを伝えることは大事。県にしつかりと伝えたい」と応じた。永島会長は「武道館に上越をPRするものがあれば、観光や上越のイメージアップにもつながる」と話し、「郷士の英雄」の時代から培われてきた武道の精神、教育の観点からも市の積極的な姿勢を求めた。



建設中の県立武道館。大型クレーンを使って鉄骨の組み立て作業が進められている (27日)

大生と合流し、JR東日本新潟支社社員らの見送りで各コースに分かれた。上越地域を巡る和歌山大の山本沙樹さん(20)は「ネットやパンフレットの情報からしか得られなかったことが形になるというところで、わくわくしている。たくさんの方を吸収できる3日間になりたい」と意気込んだ。同大観光学部尾久土正己教授は「学んだことを日本海側の導うフィールドで生かし、新しい提案ができれば」と期待した。

学生目線で魅力発掘

上越でも「新潟カレッジ」

県とJR西

北陸新幹線を活用し、関西圏の大学生が県内の体験実習を通して観光素材磨き上げプランを企画提案する

「新潟カレッジ」が27日に始まった。和歌山大と神戸松蔭女子学院大から各1人、関西大から5人の

一部を除く20日まで、事前に組み立てたスポット巡りや地域住民との交流を通じて本県の魅力を探る。県とJR西日本が主催し2年目。本県と関西圏の地域間交流の促進

進、学生の成長機会の創出、若年層向けの新たな旅行需要喚起を目的とした大学との連携プロジェクトに位置付けている。

今年度の課題テーマは「来年初の新潟県・庄内エリアアステイネーションキャンペーン(DC)にちなんだ「美食旅(ガストロノミー)」。学生たちは行程における発見や感動をSNSで発信しつつ、地域の課題を検討。11月の成果報告会で旅行企画を提案する。

3件、平成30年度補正予算5件、契約の締結1件、その他4件。議会日程は次の通り。
 ▼3日 本会議初日、委員長報告、議案上程説明(付託外議案審議)▼6日 議会運営委員会▼7、10、11日 本会議、一般質問

▼13、14日 市民厚生常任委員会(付託案件審査)▼18、19日 総務文教常任委員会(同)▼20、21日 建設産業常任委員会(同)▼26日 議会運営委員会▼27日 本会議最終日、委員長報告、質疑、討論、採決(付託外議案審議)



「恋する灯台」に認定された能生灯台をバックに記念撮影

早朝に大阪駅をたち、上越妙高駅に到着した学生たち。歓迎を受けて笑みがこぼれた